

優秀賞

## 息子とパソコン

千葉県 武部 めぐみ

大きな宅配便が届く度、思い出す事がある。

あれは十三年前、玄関先に何個も運び込まれた大きな箱。差出人はよく利用する通販会社、箱の中身は全部おもちゃだったが、注文した覚えがない。懸賞にでも当たったかと思ったが、中から領収書も出てきた。パソコンの履歴を調べると、間違いなく我が家からの注文だった。夫はパソコンを使わない。犯人は絞られた。当時三歳の息子の仕業だ。

次々と出てくるおもちゃに、息子は一瞬目を輝かせたが、母のただならぬ気配を察し、すぐさま顔をこわばらせた。私は怒り、初めて息子の小さな頬を叩いた。それでも息子は泣かず、魅力的なおもちゃにも手をつけず、ただじっと立っていた。

息子は当時からパソコン操作に慣れていた。私が下の娘の世話で手が離せない時、パソコンで好きな動画を見せてごまかしていたせいだ。通販サイトは簡単に注文が完了する設定だったため、息子は好きな物を次々クリックしただけなのだ。私はムキになって返品の手続きをし、おもちゃの山はあつという間に姿を消した。息子はそれでも泣かなかった。男の子なら外で元気よく遊んで欲しいという母の期待空しく、それから何を言っても息子のパソコン好きは変わらなかつた。

息子も今は高校生。プログラマーになる夢を持ち、今日もパソコンの前から離れない。画面に食い入る姿は、三歳から大して変わっていない気がするが、あの日叩いた頬だけは、シュツと細く大人っぽくなっていた。

何故あの時、一つだけでもおもちゃを残してあげなかつたのか、「一人で注文できてすごいね!」と言ってやれなかつたのか。ワンオペ育児で母として未熟だった自分を、十三年経った今も後悔している。

自分の好きな道を信じ、親の言葉などには動じない息子の芯の強さに、頼もしくもあり、少し淋しくもあり、複雑な気持ちで今日もその横顔を見守る。